ザ AZABU

Community Information Paper
No.44 June 21 2018
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ・AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812　ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710

麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙

アートな麻布に魅せられて⑰

これまで本紙「麻布未来写真館」で取り上げてきた麻布地区にまつわる大名、武将は33人を超え、ここ麻布に大名屋敷がいかに多かったかを如実に物語っている。今回は戦国期を彩った「和の衣装」とも言うべき鎧兜を取り上げてみた。ここに当時の人々の「美」への意識の高さを感じてもらえたら、と思う。血なまぐさい戦国時代とはかけ離れた「和の意匠」に括目してもらいたい。

鳥居坂

31号「鳥居坂」で名前の由来のひとつとなった鳥居彦右衛門元忠所用の鎧。1600年関ヶ原前哨戦で西軍を食い止めるため、玉砕覚悟で伏見城に寡兵で籠城し、激戦の末自刃。この時元忠と一騎打ちをした鈴木重朝（通称・雑賀孫市）が遺した鎧と伝わる。重朝が、元忠の子・忠政に父親の鎧の返還を申し出た。忠政は深く感銘し譲った、という逸話。その鈴木家の子孫から保存のため2004年に大阪城天守閣に寄贈された。写真の兜は幕末期の新調と伝わるが、敵将への敬意を忘れない「兵」の心意気を偲ばせる鎧兜。

【大阪城天守閣所蔵】

鳥居元忠所用
紺糸素縣縅二枚胴具足

仙台坂

重要文化財 伊達政宗所用
黒漆五枚胴具足

【仙台市博物館所蔵】

41号「芋洗坂」で坂名の由来の一説となる「疱瘡」のくだりで登場した、仙台藩初代藩主。「疱瘡」で隻眼となったことから「独眼竜」の異名がある。

麻布には仙台藩下屋敷が由来となる「仙台坂」もあり、伊達家は縁が深い大名。

政宗の兜は前立ての大きな弦月がトレードマークで、前身漆黒の具足はシャープながら堂々の迫力である。実は鉄砲戦にも対応した非常に高い防御性能を秘めた実戦向き具足でもある。

後に仙台藩内で歴代藩主や家臣たちもこの具足形式を踏襲したため「仙台胴」と呼ばれるようになった。

市三坂

松平忠直所用 緋威鉄五枚胴具足

【井伊美術館所蔵、福井市立郷土歴史博物館寄託】

29号で扱った「市三坂」の名前の（一方の）由来となった松平三河守忠直。徳川家康の次男、結城秀康の長男。徳川家光（三代将軍）や徳川光圀（水戸黄門）の従兄にあたり、越前松平氏福井藩2代藩主。大坂夏の陣で真田信繁（幸村）を討ち、真っ先に大坂城に討ち入る武勲を挙げた。祖父・父の剛毅な血を色濃く継いでいる。兜から生える二本の脇立て（角）は奇しくも真田信繁所用の（有名な赤い）兜と同じ。当時流行のデザインだったようだ。

真田信繁所用 六十二間小星兜

【井伊美術館蔵版】

「真田幸村」の名前で広く知られた「日本一の兵」。大坂夏の陣で徳川家康の本陣に攻め込む勇敢な戦いぶりから諸大名家の史料にも記録され、後世そこから軍記物など多くの創作を生んだ英雄的武将。信繁を物語るもう一つのキーワードが「真田の赤備え」で、一般に全身朱色の鎧兜に真田家家紋の「六文銭」の前立て、鹿角の脇立てが非常に有名。この兜、実は信繁が「大坂夏の陣」で着用していたと伝えられるもの（赫赫たる論拠もあるのだが、これを語るのは別の機会に）。写真では判りづらいが、前立てと脇立ての跡がしっかりと残っている。白い毛の間から赤い錣が少しご覧いただけると思う。

戦国時代最後の合戦ともいうべき「大阪の陣」、日本一の兵の光芒が現在に残っている。

なだれ坂

初代藩主佐竹義宣所用
人色皮包仏胴黒糸威具足

【秋田市立佐竹史料館所蔵】

37号「なだれ坂」で中村藩相馬家中屋敷が坂下付近にあったことから登場した人物。出羽秋田藩初代藩主。伊達政宗は母方の従兄にあたる。際立っているのは兜のフサフサとした前立てで、これは「毛虫」を表している。「毛虫は後退しない、前進あるのみ」といったイメージから使われたモチーフでもあった。佐竹氏は常陸源氏の嫡流でもあったため、「源氏＝けむし」という洒落も入っていたとか。奥ゆかしさと誇りを感じる鎧兜だ。

佐竹義重所用 黒塗紺糸威具足

【秋田市立佐竹史料館所蔵】

佐竹義宣の父で、「鬼義重」の異名を持ち、戦国期佐竹家最大の版図を築いた。伊達家とも干戈を交えた猛将。義宣の兜を上回る奇抜な「毛虫」は前立てのみならず脇立てにまで広がっている。しかしながら脇立ての鳥毛は当時のものであったかは判然としない。鎧は実戦的で攻守備えた風貌で、「鬼義重」の冠たるゆえんでもある。当時からこの親子の鎧兜を指して「佐竹の毛虫」と有名であったようだ。

芋洗坂

蒲生氏郷所用 鯰尾兜（燕尾形兜）

【岩手県立博物館所蔵】

41号「芋洗坂」で登場した蒲生忠郷の祖父・氏郷所用の兜。娘（一説に養妹）、於武の方が陸奥盛岡藩初代藩主・南部利直に嫁ぐ際に引出物として贈られた。形態は燕尾形と呼ばれる変わり兜ながら、南部家では代々鯰尾兜と呼ばれている。これは氏郷が新参の士に「銀の鯰尾の兜をかぶり、先陣するものがいれば、そのものに負けぬように働け」というハッパがけをした、という逸話に基づいているという説もある。これだけ目立つ兜を身に付けながら先陣を切った氏郷の勇敢さが偲ばれる。

今回紹介した鎧兜は数多くの逸話を秘め、事実詳らかでないことも多いのだが、400年以上の時を超えて現存する卓抜した意匠が、幾ばくながらもここ麻布に縁があると考えるならば、これは凄いことだと思う。アートは人が創るものながら、そこに纏わる人間模様も実は奇妙に繋がっている。東北・北陸の大名・武将が多いこと、偶然ではないのだが、これを語るのはまたの機会とさせていただきたい。「和の意匠」にひとすじの光がさすことを願うばかりだ。

●写真提供・リサーチ協力
秋田市立佐竹史料館
井伊美術館
岩手県立博物館
大阪城天守閣
仙台市博物館
福井市立郷土歴史博物館

●参考文献
須藤茂樹解説『戦国武将 変わり兜図鑑』（新人物往来社 2010）
歴史群像シリーズ特別編集【決定版】
小和田哲男監修 竹村雅夫編著『図説 戦国の実戦兜』（学習研究社 2009）
藤本巌監修 笠原采女編著『図説 戦国の変わり兜』（学習研究社 2010）
橋本麻里著『変わり兜 戦国のCOOL DESIGN』（新潮社 2013）
『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』（港区立港郷土資料館）

（取材・文／田中康寛　サポート／田中亜紀）

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

AQUIRAX

XARIUQA

イラストレーター
宇野亞喜良（うのあきら）さん（84歳）

今回の麻布びとは日本を代表するイラストレーターの宇野亞喜良氏です。1999（平成11）年に紫綬褒章を受章し、その記事をみた地域の人からの声で麻布十番納涼まつりのポスターを頼まれ、以来ずっと続けられています。イラストレーター以外にもグラフィックデザイナー、キュレーター(*1)、舞台美術や芸術監督も務められ、今も第一線で活躍される先生にお話を伺いました。

自分が面白がれるものを作っていく、それが「アート」だと思うから

麻布の魅力

やわらかな春の日差しがそそぐ、ある日の午後、我々取材班は麻布十番のパティオ近くのアトリエへ伺いました。快く招き入れて下さった奥様の「もうかれこれ麻布にきて40年ほど経ちます」とのお話を受けて、先生が静かな口調で話し始めました。

僕が知らない麻布十番には映画館が4つくらいあって、善福寺の近所には三業地(*2)もあった町でした。麻布は地理的に説明するのが難しく、地下鉄が通るまでは陸の孤島といわれていました。僕が麻布十番にきた頃は、商店街の端っこに居て夕方になると鰯や秋刀魚の焼ける臭いがして、まだ商店街にアーケードがあったものだから、焼き魚の臭いが籠ったりして下町っぽいところがありました。最近は商業都市の繁盛するイメージがあって、新しいものが出来るけれど定着しなくて、こうして移り変わっていく町に居るのも何となく面白いなぁと思っています。

麻布十番納涼まつり

納涼まつりのポスターは紫綬褒章を受章された年(1999年)からと伺っております。

メディアを通して僕が絵を描く人ということがわかって、納涼まつりのポスターを手掛けるようになりました。イラスト入りの団扇やTシャツもあって夏祭りということで、毎年とくにテーマはないのだけれど、ただ2012年だけは違って、東北の震災があって二年ぶりに納涼まつりが再開した年。路面店の参加システムが変わって新感覚なものになると思って、卵から女の子が誕生して手を伸ばして空中で金魚すくいをするイラストになりました（写真1）。

新しく生まれ変わる祭りの意味でね。

今年は、かつて花街だった時代の女性と今の女の子が糸電話で話をしている絵にしようかと思っていて、糸電話はわかるかしら？（笑）スマートフォンの時代なのに。

1 2012年団扇のイラスト（撮影／おおばまりか）

最近はノスタルジアで……

お祭りのイラストは、かつての麻布と現在の麻布といった表現ですけれど、最近の展開もそういったイメージでしょうか？

ええ、ノスタルジアという個展のために60年代に描いたモチーフを使って絵を描く。例えば、寺山さん(*3)が好きだったプレヴェールの「ロバと王様とわたし」に描いた挿絵を原型にしている作品は（写真2）、原型では手に弓を持っているけれど今のは拳銃を持たせている。自分の絵をモチーフにして一種の老化かなぁ？ と思うのだけれど（笑）。アトリエの大家さんが酒屋で、例えばこのBACARDI（バカルディ）やevian（エヴィアン）といった文字を入れて、もともとタイポグラフィ（文字デザイン）が好きだから文字を生かした作品もあります（写真3）。

2 Jacques Prévert, Un poète《L'âne le roi et moi》dans *Chanson du mois de mai*
ジャック・プレヴェール詩集『五月の歌』収録の「ロバと王様とわたし」上が原型、下が現在描いているパロディ
3 evian エヴィアンの文字を生かした作品

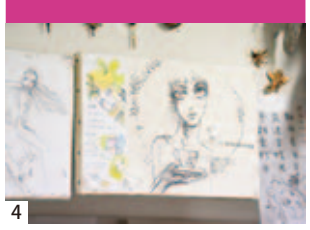
拝見すると、『愛人 ラマン』の表紙デザインのユニットをつなげて創作されたイラストも。今も輝きを放つ素晴らしい作品の数々。これらの作品のアイデアを意欲的に生み出している日常を伺ってみました。

坂のある町での日常

先生のエッセイ（*参考文献1）でも書かれていますが麻布は坂の多い町です。ご自宅のある六本木はいかがでしょうか。

近くに於多福坂があって坂の途中で一度緩やかになって、また下がってる。顔の真ん中が低いので、お多福に似ているからというけれど、横顔の感覚を地理的に置き換えているのは面白い。あ、今、歩いているのは鼻の辺りかなぁ（笑）と。最近はことによく歩くようになって、歩いていると地球の重心で腰やお尻がちゃんとするかしらと思って（笑）。ルートは六本木ヒルズや暗闇坂、綱町三井倶楽部や東麻布の方までぐるっと回って商店街の喫茶店に入ったりします。

アトリエ内の壁には、麻布十番大通りにあるスターバックスのペーパーナプキンに描かれたイラストも飾られており町内の人ともふれ合う日常を感じました（写真4）。



4 アトリエ内にあるペーパーナプキンに描かれたタイポグラフィ作品

●プロフィール
1934年3月名古屋市に生まれる。1960年代、寺山修司の天井桟敷のポスターやマックスファクターの新聞広告（東京ADC銀賞受賞）を手掛ける。日宣美特選。日宣美会員賞。講談社出版文化賞さしえ賞。赤い鳥挿絵賞。1999年紫綬褒章。日本絵本賞。2010年旭日小綬章。他受賞多数。代表作品『宇野亞喜良クロニクル』『上海異人娼館』（寺山修司原作）。2016年資生堂マジョリ画がSNS上、女の子達の間で人気沸騰。2017年自身のブランドQXQX（クスクス）を立ち上げる（写真5）

5 名前「AQUIRAX」と少女の笑い声を重ねてクスクス「QXQX」と表現したブランドのグッズ類
6 全国の郵便局から発売されたおとなの郵便はがき第6弾

出発点は喫茶店

お散歩の途中で入られるという喫茶店ですが、お好きなのでしょうか。名古屋での少年時代、お父様の影響で絵筆を握られ、お母様の経営する喫茶店で多くの時間を過ごされたとのことですが。

喫茶店、好きです。母の経営する喫茶店には長居するお客さんがいるため、新聞、小説誌、週刊誌が置いてあって、毎日新聞に連載していた舟橋聖一の『花の生涯』に描かれていた木村荘八(*4)の挿絵が素晴らしかった。作家が文章を書けていない時に画家がその周辺を描くというのがカッコいいと思った。僕がグラフィックデザイナー系イラストレーターになっていったのも、木村荘八の挿絵との出合いが大きかったと思います。

デザイナーとして／イラストレーターとして

高校生の頃、演劇のパンフレットを描いた時に、先輩に「君の絵は叙情的だ。センチメンタルではつまらないよ。もっと思想がないと。」と画家の思想を言われたけれど、デザイナーであれば人のメッセージをどう変換するかということだから、自分から何か発言して世の中を変えていくというのは、僕には合わないと思ったのが、デザイナーになったポイント。グラフィックデザインでも何でもそれが時代に面白い効果を果たしたりすれば、アートになるんだ。今はコンプレックスがない時代、「これがアートだ」「これがデザインだ」「これがイラストレーションだ」という縛りを外して、とにかく自分が面白がれるものをつくることかなぁ……とたまに考えています。

と、光放つ眼差しと満ちたりた笑顔が印象的でした。先生お時間いただきありがとうございました。

*1 キュレーター：博物館、美術館等の文化施設で資料の収集、保管、展示及び調査研究についての業務を行う専門職。主に展示する作品の企画から運用まで行う。
*2 三業地：料理店、芸妓屋、待合の三つの営業を許可された地域。花街と同義、20世紀前半まで遊興地帯であった。
*3 寺山修司：1935年生まれ、47歳の若さで世を去った。歌人、劇作家、天井桟敷を主宰。『家出のすすめ』他膨大な数の文芸作品を残す。
*4 木村荘八（きむらしょうはち）：1893年日本橋に生まれる。洋画家、随筆家、版画家。春陽会創立に客員として参加。1937年永井荷風『濹東綺譚』の挿絵が好評で、大佛次郎の作品も手掛けた。

●*参考文献
1、宇野亞喜良『定本 薔薇の記憶』（立東舎 2017）
2、港区立港郷土資料館編『(増補)港区近代沿革図集 麻布 六本木』（港区立港郷土資料館 2010）
3、マルグリット・デュラス 清水徹訳『愛人 ラマン』（河出書房新社 1985）

（取材／おおばまりか、高柳由紀子、堀内明子　文／おおばまりか）

地域社会のゆくえ 24

新しいこと、始めませんか？ カルチャー講座篇

広尾駅の真上にある「みなとふれあい館」を訪ねて

公益社団法人港区シルバー人材センターが運営する「みなとふれあい館」。「館」という字はつくものの、所在地は広尾駅（4番出口）に直結したビルの3－4階。ここで「パソコン教室」と「カルチャー講座」の2本柱の事業が営まれている。
今回は「カルチャー講座」の方におじゃましてみた。

広尾駅4番出口直ぐに小さな門が。入ると直通のエレベーターあり。

多彩な講座、講師は港区在住シニア

健康系、ダンス系、創作系、語学系、文芸系など、バラエティに富む講座が20種類以上。週に一度2時間、1回あたりの料金は1000円前後（※）と、民間のカルチャーセンターなどと比べるとお手頃感がある。それは講師を務めるシルバー人材センター会員の方々の志──長年培ってきた経験・知識・技能を生かすこと、そして地域社会への貢献──の賜物であるようだ。一方、受講者は幅広く募集、年代や港区在住の有無を問わないということだ。どんな先生がどんな方々に教えているのだろう。二つの講座を訪ねた。
※講座は3ヶ月単位で募集。初回は無料体験も可能。

受付もシルバー人材センターの方が務めている。

●みなとふれあい館
受付時間／9:30-17:30
休館日／日曜・祝日・12/27-1/5　**電話**／03-5475-1305
港区南麻布5-1-25
東京メトロ日比谷線「広尾駅」4番出口上の建物（受付は4F）
http://www.minato-sc.or.jp/fureai

サルサ・ダンス篇「形より気持ちで。中南米発の開放感が魅力」

宮澤緑先生

宮澤緑先生は、体育大学のご出身。長年フィットネスクラブで、エアロビクスや創作ダンスなど様々なプログラムの講師を務めてきた。そして、18年前にサルサ・ダンスに出会い、その魅力にすっかりとりつかれたそうだ。サルサ・ダンスの醍醐味は、「躍動感、そして何と言っても既成の概念から解き放たれたような開放感」だと言う。そして昨年、ご自身がシルバー世代に入ったのを機に新しいフィールドを求めた。「サルサをもっと広めたい。多くの人と分かち合いたい。地域の健康増進にも貢献したい」という強い気持ちがここでの開講につながった。

レッスン場に陽気なラテンのリズムとちょっぴり甘い男性ボーカルのサルサ音楽が流れる。「膝の力を緩めると身体が波のように動いていきます」、「ダンスは音を身体で感じるんです。形じゃなくて気持ちの揺れが大切です」、「ラテンのリズムを聞くと、『どうにかなるんじゃない？』みたいな、陽気に生きられそうな気がしませんか」……ダンスと同時に先生からはサルサの世界観を伝える言葉が続く。受講者の皆さんは本当に思い思いな感じで揺れていた。年齢も場所も忘れたような無邪気な開放感が漂っていた。

皆さんもともと初心者の方ばかり。「家でもサルサ音楽を流してみたらいい感じで家事もはかどった」という方、あるいは「けっこう体重が落ちたわ」という方もいた。

先生を囲んで皆んなでサルサ風ポーズ

サルサの基本はペアダンスだそうで、レッスンの後半はかわるがわる先生とペアで踊る場面も。

読み聞かせ・朗読・語りの表現講座篇「相手に伝わる極意を伝授」

伊藤豪先生

伊藤豪先生は劇団民藝出身の超ベテランの俳優さんで、現在は劇団アドックを主宰、麻布演劇市（港区内で活動する非営利の演劇団体と麻布区民センターの共催事業）でも役者兼演出家として活躍されている。初対面早々、「普段より半音でも高い声で『こんにちは』と言うだけで、気持ち良く相手に伝わりますよ」と、当たり前の「こんにちは」を見直すコミュニケーションの極意を教えてくださった。講座では、専門学校で演劇指導する際のノウハウを生かしたオリジナルテキストにより発声の心得を伝授。そして、受講者による文学作品の朗読に対してきめ細かくアドバイスを行う。声に出して読むことを想定せずに書かれた作品の朗読にあたっては「作家の気持ちを大切にくみとって読んでほしい」と言う。

受講者の読みグセを指摘しつつも、伊藤先生のアドバイスは実に優しい口調だった。

「話が展開する時には、聞き手に考えさせる時間を与えるためにちょっと切りましょう」、「息つぎをする時には同時に聞き手の反応も見ましょう」、「伸ばす音は大事にしてください。例えば、料理（りょーり）も発音の仕方で味わいも違ってきます」など、具体的かつ深みのある講評はまるで日本人のための日本語教室のようでもある。

受講者の間でも、互いに感想を言い合う自由闊達な雰囲気ができている様子だった。次回読む作品を選ぶために図書館でいつも熱心に目を光らせていると話す方もいた。生徒さんの中からは、伊藤先生の主宰する劇団の舞台へと進む方もいるということだ。

取材を終えて、とにかく好きなこと、秀でていること、自分の持てる無形の才を惜しげなく人に伝えていきたい、というお二人の講師の熱い気持ちが印象に残った。他のプログラムもきっと同様に、シルバー世代の豊富な人材に支えられ展開されているのであろう。

●**取材協力**　（公社）港区シルバー人材センター

（取材／出石供子、大村公美子　文／大村公美子）

サミル・M・カミース特命全権大使
His Excellency Mr. Samir Mohamed KHAMIS

イエメン共和国
面積：55.5万平方キロメートル（日本の約1.5倍弱）
人口：約2,747万人（2016年／国連）
首都：サヌア
元首：アブドラッボ・マンスール・ハーディ大統領
議会：国会は選挙で選出される301名の議員からなり、立法権を有する（議員任期は6年）。他に大統領への助言機関として大統領任命による111名の議員からなる諮問評議会があるが、立法権はない。

参考：外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/yemen/index.html

取材協力／イエメン共和国大使館

大使を訪ねて 44
麻布の"世界"から

YEMEN

麻布の大使館ビルから世界遺産を訪ねて

今回のインタビューは、「ザ・AZABUのバックナンバーを読んだ大使から、支所に取材の申し出が来て実現した。大使は民族衣装で臨んだ方がいいかと事前に問い合わせるほど取材に意欲的。冒頭、編集委員が「取材時間が90分しかないので、てきぱき進めます」と挨拶すると、「東京時間（タイム）でね」とにっこり応じ、ゆっくり取材していいよと示唆してくれた。

シバーム・ハドラマウトの旧城壁都市
©Makimura Rei

ロックパレス

大使館入口

日本について

まず、大使の日本の印象を聞くことからインタビューが始まった。空港に到着した瞬間、出迎えた人たちの笑顔と温かいもてなしに、日本社会にすぐ溶け込めると勇気づけられた。日本は幾多の震災などで被災した後も、地道な復興を続けている国民性に学ぶことが多いと感じていた。前向きな姿勢と努力、秩序正しい暮らし、きれいな街並みを維持していることを実際に見て感嘆した。

世界遺産巡りが大好きな大使は、日光、富士山、京都、広島や宮島を訪ねたことを「地名を間違えないように」と用意していたメモを見ながら語ってくれた。お天気次第だが、晴天時は東京の公園を歩き、自然に触れるようにしている。

食について

大使は新しいメニューを試すのに積極的で、和食ではしゃぶしゃぶが大好き。その理由は「単に提供されたものを食べるのではなく、作る過程に携わっているところが楽しい。 イエメンでは、作りながら食べると言えばバーベキューくらいだから。」

イエメン特有の料理を訊ねると、“フェヌグリーク”という香辛料を用いて、肉と米と野菜を煮込む、“サルタ”を紹介してくれた。これは、大使夫人が大使の母上から伝授された一品。まさに「お袋の味」の家庭料理であり、イエメンの国民食と言ってもいいほどポピュラーなシチューだ。その味は代々伝承されていくのだろう。サルタは通常、平パンと共に食する。平らにのばした直後に釜で焼かれるパンで、イエメンでは市場で このパン売りの女性をみかける。この“ラホーハ（Lahoh）”と呼ばれるパンは、別名“マルーガ（Malug）”とも言う。スポンジ状のパンケーキのような薄焼きパンで、イエメンが発祥だと言われている。朝食や昼食では、イエメン特産の蜂蜜を塗って食べるのが一般的だ。また、サハフ（Shafout）という、青唐辛子、トマト、キュウリ、ハーブなどをすり潰した塩と酸味で味付けしたピューレはラホーハにつけて食べることも多い。

イエメンの民芸品。中央が三日月刀（ジャンビーア）

イエメンの世界遺産と民芸品

外交官として国外に赴任した後、イエメンに戻ると、自分の国を改めて観光したい気分 になると大使は言う。世界遺産好きの大使、イエメンの４つの世界遺産には何度行っても飽きないそう。「国情が落ち着いたら、日本の方にも４か所とも見に来て欲しい。それぞれにまったく違う特徴がある。」と、大使館内に飾ってある写真を見せながら説明してくれた。城壁に囲まれた「イエメンの玄関口」サヌア（San'a）旧市街、世界最古の高層ビルが立ち並ぶ「砂漠のマンハッタン」シバーム・ハドラマウト（Shibam）の旧城壁都市、イエメンで最も古い多くのモスクが立つ古都ザビード（zabid）、島特有の生態系を有する「インド洋のガラパゴス」ソコトラ（Socotra）諸島。どれもイエメンならではの表情のある場所だ。昨今の衝突で深刻な被害を受けている危機遺産に指定されていることが懸念される。

さらに、準備していたアンクレットやネックレス、三日月刀（ジャンビーア）などの民芸品についても丁寧な説明があった。ジャンビーアは、現代のアラブ諸国の中にあっても、イエメンだけ、民族衣装のベルトに帯刀される。一人前の戦士の証であり、かつての日本の武士に通じるところがあると感じた。

シバの女王

最後に「シバの女王」の話題になった。シバの女王は、コーランや旧約聖書などに登場する人物で、その王国は現在のイエメンにあったとも言われる。民の声を聴き、初めての民主主義国家を築いた女王で、国民の誇りだと大使は言い、シバの女王に倣って、共和国として独裁を許さず、自由を守っていくと力強く話した姿が印象的だった。

シバーム・ハドラマウトの旧城壁都市の一角　©Makimura Rei

ザビード市　©Makimura Rei

サヌア旧市街

ソコトラ島

「東京時間」を超えた取材が終わった後、大使夫人が職員にレシピを伝授したイエメンのジャム入りの焼き菓子“アジュアタマル”でのおもてなしを受け、美味しくいただいた。

おもてなしのお菓子アジュアタマル

イエメン大使館　http://www.yemen.jp/index_j.php

（取材／畑中みな子・米沢恵美　文／米沢恵美　編集サポート／高柳由紀子・田中亜紀）

麻布未来写真館

～再開発を乗り越えた坂～道源寺坂（どうげんじざか）

周囲をアークヒルズ、泉ガーデンといった大きな再開発に見舞われながらもその名を留めた、いわば「再開発を乗り越えた」坂だ。坂上には坂名の由来となった「道源寺」が今も佇む。麻布の坂の中では比較的小さい坂で、大規模な再開発に遭いながら「よくぞ残った！」と讃えたくなるこの坂、実にいい風情なのだ。

坂上から赤坂方面を望む。右手に見えるのは道源寺山門。現代と江戸時代を垣間見るような景色が広がる。曲がりくねった坂なので坂下は見えない。

狭隘（きょうあい）・蛇行・急峻（きゅうしゅん）

すぐ隣に「スペイン坂」があり、こちらは現在も桜並木が見事で賑わいを見せるが、真隣にありながらひっそりと佇んでいるのが対照的で、これがいい風情を醸し出している。狭隘かつ蛇行、その上急峻。往時の麻布を象徴しているようで、繰り返すようだが周辺が大規模な再開発に遭いながらのこの佇まい、実に見事だ。

別名「道源坂(どうげんざか)」。奇妙な偶然だが、渋谷にも同じ読みの坂があり、同じくスペイン坂もある。

（一言お断りしておく。「あくまでも偶然」で何ら関係がある訳ではない。）

落語の舞台

話はガラリと変わって江戸時代。道源寺坂周辺は「麻布谷町(たにまち)」と呼ばれていた。ここに落語「井戸の茶碗」の（一方の）主人公、曲がったことが大嫌いなくず屋清兵衛、人呼んで正直者清兵衛が住んでいた。「くず屋」とは今でいえば「リサイクル業者」といったところ。この話、とても清々しい内容なのでご存知ない方は是非一度落語をご覧いただきたい。ここでは少しだけ作品について触れておく。

古典落語の演目のひとつで、「人情噺」や「武家噺」に分類されるが、「滑稽噺」として演じられることもある。講談「細川茶碗屋敷の由来」を基にしたものといわれている。正直者の清兵衛がひょんなことから出会う、これまた正直者且つ頑固な武士ふたりに挟まれてのやり取りが思いもよらぬ展開を呼ぶことになる。（ある意味だが）正直者であるが故に三者ともハッピーエンド、というところに人情味を感じ、正直者同士のやりとりもコミカルに描かれている。いうまでもなく架空の話なのだが、道源寺坂の今の雰囲気とも相俟って清々しさを感じる。

昭和52（1977）年：旧麻布谷町の商店街。道路の左側が六本木1丁目1番、右が1丁目3番、上方の建物はスペイン大使館と思われる。写真提供：桜井昭一氏

昭和48（1973）年：旧麻布箪笥町北寄りの高台から旧麻布谷町を望む。上方に当時の霊南坂教会が見える。
写真提供：桜井昭一氏

平成23（2011）年：泉ガーデン上層階から、くず屋の清兵衛が住んでいたとされる旧麻布谷町の方向を望む。住居表示はなくなったが、首都高速3号渋谷線と都心環状線の合流地点、「谷町ジャンクション」（写真中央）の名に残されている。

坂下より上って道源寺山門を望む。青空がよく映える。周囲はマンションやビルに囲まれている。

道源寺

道標によれば「江戸時代のはじめから坂の上に道源寺があった。その寺名にちなんで道源寺坂または道源坂と呼んでいた」とある。くどいようだが、これだけの再開発に遭いながら「江戸時代のはじめからあった寺」なのだ。落語のくだりではないが、「頑なさ」がなければ残る事叶わなかったかもしれない。坂が「名残」にならなくて本当に良かった、と思う。

坂中腹より少し左手上に山門があり、その右手（坂の中央）に大きな木が聳（そび）えている。

きっと寺とともに、変わりゆく街並みを静かに見守ってきたのだろう。

曲がったことが大嫌いな清兵衛さんが住んでいた谷町には、曲がりくねっていながら「見事な頑なさ」を今に残してくれている正直な坂があるのだ。

坂下より中腹に向かって。急勾配であることがよくおわかりいただけるかと思う。

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、地域への共感や愛着を深めていただくため、麻布地区の歴史やまちの移り変わりを記録、保存、継承する活動を行っています。

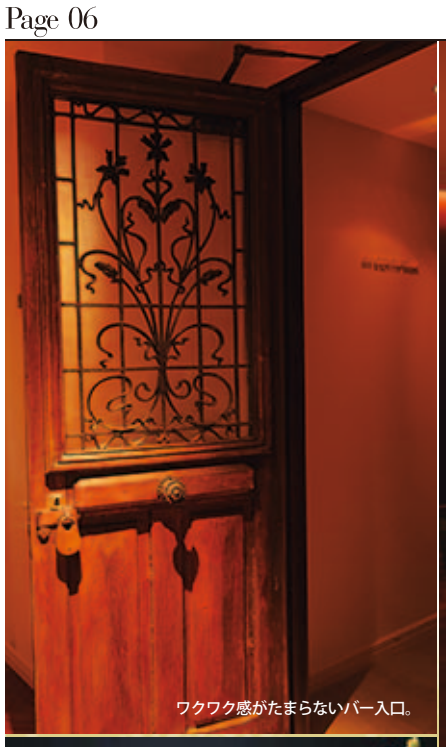
麻布地区の定点写真の撮影、昔の写真の収集等については、港区在住、在勤、在学者で構成された区民参画組織「麻布を語る会　麻布未来写真館分科会」が主体となって活動しています。まちの歴史や文化を多くの方々に知っていただけるよう収集した写真をパネルとして港区ホームページや展示会で紹介していますのでぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！

明治から昭和にかけての麻布地区の建物や風景、お祭りなどの写真を募集しています。詳しくは、港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当までご連絡ください。

お問合せ　電話：03-5114-8812

（取材・文／田中康寛　撮影／おおばまりか）


ワクワク感がたまらないバー入口。

扉を開けると迎えてくれるカウンターテーブル。

全国泡盛カクテルコンテストで優勝した作品『アロアロ』。ヨーグルトリキュール、フレッシュグレープフルーツジュース、ザクロのグレナデンシロップなどで完成させている。

プロフェッショナルバーテンダー認定試験に合格した現役プロフェッショナルバーテンダーによるコンペティションで、2013年に優勝したオリジナルカクテル『花舞妓 ～伝統の美～』。

編集委員が行く！ あざぶ食遊記 2

大人の夜を過ごせる オーセンティックバー へ

バーという響きは、まさしく大人の世界。お酒がメインで、カクテルを作れるバーテンダーがいる本格的なバーを、オーセンティックバーと呼ぶ。バーの王道である。古くから作家、画家など文化人の溜まり場として、銀座のバーの話題は、エッセイなどでも目にする。洋画の中でも、バーのシーンはよく登場する。おしゃれな雰囲気のバーで語り合う美男美女の恋の行方にドキドキした方も多いのでは？　お酒をたしなまない方も、カクテルの王様と言われるジンベースの『マティーニ』、ウォッカベースの『ソルティードッグ』や『スクリュードライバー』など、耳にしたことはあるはず。そんなバーって一体どんなところ？ 今回は麻布十番に2017年誕生した、話題の「BAR CENTIFOLIA（バー センティフォリア）」を訪ねてみた。

カクテルを愉しむ

麻布十番大通りに面したビル６F、重厚な扉を開けると、大きく、立派な一枚板のカウンターが目に飛びこむ。アフリカ産、ブビンガという木で作られた長さ7m、幅１mの一枚板だ。奥には美しく並べられたボトルの数々と、アンティークなグラスたち。クラシックが流れる店内は中世ヨーロッパの雰囲気。階下の喧騒が嘘のような、静寂でラグジュアリーな空間が広がる。内装は、イタリアの初期バロック美術の彫刻家兼建築家ベルニーニ（1598-1680）の作品をイメージしているという。そう説明してくれたのは、キリッとした佇まいながら、優しい笑顔の、オーナー駒井優三（こまいゆうぞう）さん。

駒井さんがバーテンダーを目指したのは18歳の時。福岡・博多の名門バーで修業を積んだ。そしてバーテンダーの全国大会で４回、台北の大会を合わせ、５回頂点に登りつめ、伝説のバーテンダーとなる。2017年、満を辞して、ここ麻布十番に自分のバーをオープン、現在29歳の若さだ。

2014年 サントリーカクテルアワードで 総合優勝した時の『Lejay Chocolatre（ルジェ ショコラトル）』を作っていただく。日本一のテクニック、お手並み拝見である。ルジェ キャラメル、モーツァルト R.G.、ボウモア12年、生クリーム、岩塩をシェイカーに入れて、一杯入魂！ 真剣勝負の力強いシェイキングが始まる。最初は客席から90度横に立ち、終わった後は正面に向き、仕上がりをグラスに注ぐ。クッキー、チョコレート、アラザンを浮かべて完成だ。キャラメル、チョコレートのリキュールを使った甘めのカクテルだが、アクセントにウィスキーも入っていて、含みのある味に仕上げている。お客への提供までの全てが様になっていて、思いっきり見とれてしまう。

力強く、見る側を圧倒する駒井さんの心のこもったシェイキング。

氷を割る仕草、力強いシェイキング、仕上がりをグラスに注ぐ手つきはレジェンド バーテンダーそのものだった。

使うものすべてにこだわりが

店には数百種類のボトルが並び、カウンターには数十万円するブランデーがさりげなく置かれていて、唯一無二の駒井ワールドが広がる。お酒のメニューは無限大。もちろんノンアルのカクテルも。おつまみのチョコやナッツ類など、駒井さんの眼鏡にかなった厳選品だけが供される。

店ではフレッシュフルーツカクテルも人気。季節のフルーツをカットするのは、博多時代から使いこなしている福井県越前市の伝統工芸士、佐治武士（さじたけし）氏作のナイフ。日本古来の鍛造刃物を製作する鍛冶三代目の作品である。

バースプーンで材料、氷などをかき混ぜる作業をステアというが、このバースプーンの長さ、素材にも個々のバーテンダーに好みがある。駒井さんはステンレス製より重い、ニッケルシルバー製を愛用。指先だけで回してその反動を利用するため、軽い物は使えない。カウンター奥に並ぶ1点もののアンティークグラスにまつわる話を聞くだけでも、時間（とき）を忘れてしまう。氷を割る仕草、ロンググラスの拭き方ひとつまで、洗練されたパフォーマンスが繰り広げられる。

バーで飲むことは、最初の敷居を飛び越えれば、とても身近な存在になるはずだ。一人でグラスを傾けるのも良い、デートにも使える、ソファー席で接待もできる。そう、今宵貴方も日常をそっと置いて、このバーで深い夜に包まれるのはいかがだろう。

どれも美しく磨き抜かれたグラス類。1点もののアンティークグラスが並ぶ。

フランスの20年もののブランデーは、卵の殻に入っているごとく。希少価値の1点ものを入手するのも、駒井さんの腕の見せ所だ。

店名の「CENTIFOLIA」はバラの種類の一つ。100枚の花びらを持つと言われ「１枚を１年として、100年続く店でありたい」、駒井さんの想いが込められている。地域に溶け込んで、地元密着型のバーを目指す姿勢は、すでに多くのファンの心を掴んでいる。

●BAR CENTIFOLIA
港区麻布十番1-6-5 ラミューズ麻布十番ビル6階
電話／03-6455-4479
営業時間／17:00 ～ Last
定休日／無休
FB／ https://www.facebook.com/barcentifolia/

バースプーン、ナイフ、フルーツやハーブのデコレーションに使う自家製の道具類。

（取材／高柳由紀子、堀内明子　文／高柳由紀子）

平成30年度港区総合防災訓練（麻布会場）を実施します。～体験して学ぶ防災訓練～

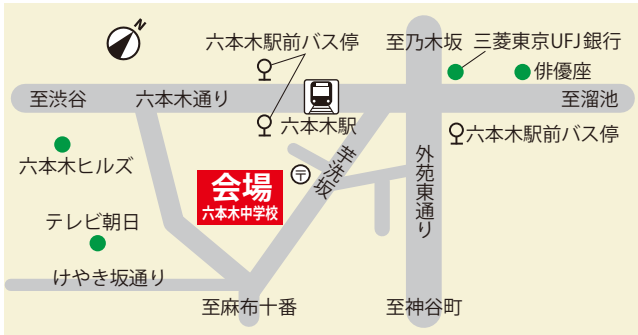
総合防災訓練（麻布会場）では、初期消火訓練等の基礎訓練のほかにマンションベランダ避難体験（隔壁破壊訓練・避難はしご下降訓練）などの体験型訓練を主として行います。また、子どもも体験できる訓練を取り入れ、おもちゃの交換会も行うなど、子どもから大人まで楽しみながら防災の知恵や技を学ぶことができます。

当日はぜひお気軽に会場へお越しください。

※詳細は、次号（45号・9月発行予定）でご案内します。

日　時　平成30年11月4日（日）
9:30 ～ 11:30　予定

場　所　港区立六本木中学校
校庭及び体育館
六本木6-8-16



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／03-5114-8802

麻布地区 地域事業

「ルール違反ゼロの六本木へ」　合い言葉は ZERO ROPPONGI ～六本木安全安心憲章～

ルールがあるから自由がある。たくさんの人と文化が集う六本木で、すべての人が自由に、楽しく過ごせるように。

ルール違反 ゼロの六本木へ。
合い言葉は、ZERO ROPPONGI

「清掃・啓発活動」と「客引き防止パトロール」を主なテーマとして、町会・自治会、商店会、事業者、関係行政機関の皆さんとキャンペーン活動を行っています。活動に興味のある人は、お気軽にお問い合わせください。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／03-5114-8802

憲章に賛同する店舗・事業所を募集しています。

区では、憲章を周知する一環として、港区「六本木安全安心憲章」推奨事業所等認証制度を実施し、憲章の趣旨に賛同する事業所等を随時募集しています。

また、憲章制定から5周年を迎える平成30年度を好機とし、まちのルールの更なる周知・浸透を目指します。

賛同書の申請フォームは、こちらから
港区ホームページ http://www.city.minato.tokyo.jp/
六本木安全安心憲章　検索

対　象　六本木地区（六本木3 ～ 7丁目、赤坂9丁目7番）に主として立地または活動する事業所等

申し込み　直接または郵送で、賛同書に必要事項を明記の上、麻布地区総合支所協働推進課へ。また、港区ホームページでも可。

※「賛同事業所等」として、名称を港区ホームページや本紙に掲載します。

麻布地区 地域事業

【麻布地区地域サロン事業】“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。毎月、麻布地区のいきいきプラザ4館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。

会場及び内容（予定）
※８月はお休みです。プログラムは変更することがありますのでご了承ください。

◆飯倉いきいきプラザ　東麻布2-16-11	◆西麻布いきいきプラザ　西麻布2-13-3
7/4（水）フラダンス 9/5（水）手作り「ちぎり絵」	7/19（木）コーラス 9/20（木）ボッチャ体験
◆ありすいきいきプラザ　南麻布4-6-7	**◆南麻布いきいきプラザ　南麻布1-5-26**
7/12（木）ミニ縁日 9/13（木）麻布写真館	7/25（水）落語 9/26（水）素敵なポップコーラス

時　間　毎回午後1時30分から午後３時30分まで　**対　象**　どなたでも
参加費　100円（茶菓子代含む）
申込み　不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係　電話／03-5114-8822

第68回“社会を明るくする運動”第15回青少年健全育成大会in六本木を開催します

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、今年で68回目を迎えます。皆さんお誘いあわせの上、ぜひお越しください。

日時　平成30年7月7日（土）
式典・コンサート：午後1時25分～午後3時45分
パレード：午後4時～午後4時40分

会場　式典・コンサート：六本木ヒルズアリーナ（港区六本木6丁目10番1号）
パレード：六本木ヒルズアリーナ～けやき坂～麻布十番商店街～一の橋入口

当日の注意事項　悪天候の場合、中止することがあります。式典・コンサートは、当日午前9時、パレードは午後3時から、みなとコールで、開催の有無をご案内します。
みなとコール／03-5472-3710

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係　電話／ 03-5114-8802
保健福祉支援部保健福祉課福祉活動支援係　電話／ 03-3578-2379

落書き消去を支援します

落書きは、街の美観を損ねるだけでなく、住民や通行人が不安を感じ、犯罪の誘発にもつながります。快適に、安心して過ごせるまちを守るため、落書きをさせないまちづくりに取り組みます。

対象となる落書き　区内の建物等の公衆の目に触れる場所に、管理者の許可なく書かれたもの

申請ができる人・団体　①落書きされた建物等の所有者または管理者等
②町会・自治会等地域の生活安全・環境美化活動を行う団体

支援方法　①落書き消去剤、ウエス等の貸与・支給
②上記①では消去できない場合は、専門業者に委託して塗装による落書き消去

費　　用　無料

申込窓口　各地区総合支所協働推進課または防災課生活安全推進担当

お問合せ／防災危機管理室防災課生活安全推進担当　電話／03-3578-2272
麻布地区総合支所協働推進課協働推進係　電話／03-5114-8802

「第38回共に生きるみんなの歌と踊りのつどい」を開催します

歌や踊り、詩の朗読を通じて、障害のある人もない人も一緒になって参加し、楽しむ毎年夏の恒例行事です。ぜひ会場へお越しください。

日　時　平成30年７月7日（土）午後１時30分～ 4時
会　場　麻布区民センター　区民ホール
内　容　区内の福祉施設・ボランティア団体などによる歌・ダンス・詩の発表
入場料　無料

お問合せ／港区社会福祉協議会 ボランティア・地域活動支援係
電話／03-6230-0284

オレオレ詐欺・還付金詐欺被害に要注意！

不審な電話がかかってきたら、絶対に個人情報を教えず、本物の家族に連絡し、警察に相談してください。また、警告音声が流れる迷惑電話防止機能付電話機の設置をお勧めします。

お問合せ／麻布警察署防犯係　電話／03-3479-0110（内線2162）

港区麻布地区総合支所だより

港区基本計画・麻布地区版計画書を見直しました

このたび、麻布地区総合支所は、地域を取り巻く状況の変化を踏まえ、施策の成果や課題の検証を行い、平成27年3月に策定した「港区基本計画・麻布地区版計画書」を本年3月に見直しました。

見直しに当たっては、麻布地区の区民参画組織「麻布を語る会麻布地区政策分科会」を設置し、分科会からの提言内容を踏まえ、その反映に努めました。

麻布地区版計画書に計上する事業実施に向け、「参画と協働」による取組を一層推進し、地域課題の解決に取り組みます。

※計画期間は、平成27(2015)年度からの6か年の後期3年に該当する、平成30(2018)年度から平成32(2020)年度までです。

麻布地区版計画書はこちらから▶

港区ホームページ
http://www.city.minato.tokyo.jp/
港区基本計画　検索

麻布地区版計画書とは

地域の課題を地域で解決し、地域の魅力をより高めるため、分科会からの提言を踏まえて見直し、複数年間(平成30(2018)年度～平成32(2020)年度)の計画を立案した、麻布地区総合支所が独自に取り組む9つの地域事業を中心とする計画書です。

麻布地区 地域事業

地域事業とは

麻布地区の実情や特有の課題、その解決の方策等を盛り込み、麻布地域の魅力を高めるために、3か年の年次計画を立て、重点的に取り組む事業です。

●麻布地区総合支所が取り組む9つの地域事業

🧁印は新規地域事業

- 六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～
- 「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～
- みんなでエコっとプロジェクト
- みんなでまちをよくする「ミナヨク」
- 🧁 AZABU WORLD FESTA
- 麻布未来写真館　～次世代へつなぐ麻布の記憶～
- 地方交流事業
- 地域サロン　～ちょこっと立ち寄りカフェ～
- 麻布の魅力探訪事業～あざぶ達人ラボ～

次号(45号・9月発行予定)から3回に分けて各事業の内容をご紹介します。

六本木安全安心プロジェクトでの環境美化活動

ミナヨクメンバーによる地域をよくするアイデア出し

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課 地区政策担当
電話／ 03-5114-8812

平成30年度「ミナヨク」メンバー募集のお知らせ

麻布地区 地域事業

平成30年８月から、全６日間の少人数制プログラムを実施します。仲間とのアイデア出しやフィールドワークを通じて、地域の活性化に取り組む若い人材を募集します。

●開催日程(予定)　※原則、全日程にご参加ください。

Day1	8月23日(木)	19:00 ～ 21:30	地域を知る
Day2	8月31日(金)	19:00 ～ 21:00	デザイン思考講座＋テーマ作り
Day3	9月8日(土)	8:45 ～ 17:00	フィールドワーク＋チームビルディング
Day4	9月15日(土)	9:00 ～ 17:00	アイデアを考え、形にする
Day5	10月3日(水)	19:00 ～ 21:00	アイデアを試し、改善する
Day6	10月20日(土)	9:30 ～ 17:00	意見を聞く＋修了式

※６日間のプログラム終了後、追加講座を実施する場合があります。

▲ゲストやプログラムの最新情報はこちら

みんなで まちをよくする ミナヨク 体験イベント開催！

ミナヨクの取組を紹介するとともに、皆様の質問にもお答えします。事前申込は不要です。ご興味がある方、参加を迷っている方、どなたでもご参加ください。

日時　平成30年８月6日(月)　19:00～
会場　HAB-YU Platform
港区六本木1-4-5　アークヒルズサウスタワー 3F

※平成30年度「ミナヨク」メンバーに応募される場合は、体験イベントへの参加が原則です。

会　場　HAB-YU Platform（http://hab-yu.tokyo/）
港区六本木1-4-5　アークヒルズサウスタワー 3F
※六本木一丁目駅　中央改札より直結

対　象　20 ～ 40代の地域の担い手となる以下に該当する方
●麻布のまちの活性化やコミュニティデザインに興味・関心のある方
●地域に参加したい方

定　員　20名程度
※応募多数の場合は抽選。

参加費　無料

応募方法　以下のいずれかの方法でお申込みください。
①区HP応募フォーム
②参加申込書をご記入のうえ、郵送してください。
（麻布地区総合支所協働推進課でも配布しています。）

▲応募フォーム、参加申込書ダウンロードはこちら

応募期間　平成30年7月2日(月)～8月10日(金)まで
※体験イベント参加後のご応募も可能です。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話／ 03-5114-8812

買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せくだサイ

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電　話／03-5114-8812　●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。

「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief　田中亜紀
Sub Chief　高柳由紀子
Staff　出石供子　おおばまりか　大村公美子　加生武秀　加生美佐保　小池澄枝　田岡恵美　田中康寛　中嶋　恵　西森瑞穂　畑中みな子　堀内明子　堀内實三　森　明　米沢恵美

編集後記

麻布に住んで約7年。古いものと新しいものが混在するこの街が大好きです。最初は『ザ・AZABU』のファンで一読者でしたが、「もっといろいろなことが知りたい」「私もこんな記事が書けるようになりたい」という気持ちがむくむくと湧いてきて、半年前から編集会議に参加しています。会議中はまだ、編集委員の方が紹介される取材エピソードを“読者目線”で楽しんでいる状態ですが、最終版を手にしたときに以前より親近感が増すようになりました。いつか自分からも情報発信したいです。　(西森瑞穂)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前7:00 ～午後11:00　※英語での対応もいたします。
電　話／03-5472-3710　FAX ／03-5777-8752
お問合せフォーム／ httos://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html